

果菜類の施設化と連作障害対策による生産力向上

■背景とねらい

きゅうりは、管内野菜販売額の約4割を占める重要な品目である。近年は、新たにきゅうり栽培に取り組む農業者も増加している。

そこで、作柄安定に向けた施設化の推進と連作障害対策、新たな担い手の育成といった課題解決のための活動に取り組んだ。

■本年度の取組

1 取組の内容

(1) 施設化(雨よけ、養液土耕、細霧冷房)の推進

2年間の活動を通じて作成した雨よけ栽培と養液土耕栽培の推進資料を用いて、講習会などの機会に、導入に向けた啓発活動に取り組んだ。

また、施設化がもたらす過度な高温による茎葉の焼け症状などに対応するため、近年設置が進んでいる細霧冷房について稼働事例の調査を行うとともに細霧冷房導入資料の作成に取り組んだ。

(2) 施設土壌における連作障害対策と生産性向上

施設化により問題となるキュウリホモブシス根腐病対策チラシによる啓発、同病発生ほ場の把握と速やかな情報共有による拡大防止並びにきゅうりのネコブセンチュウ類に対する体系防除の実証に取り組んだ。

(3) 担い手の確保と育成

新規栽培者向け講座を開催するとともに重点対象者を選定し、栽培技術向上のため月次での巡回指導、現地講習会及び情報交換会を行った。

2 進捗管理

前述の取組内容ごとに主担当者を決め、所内での役割を明確にした。月次できゅうり重点チーム会議(チーム員8名+野菜専技)を開催し、活動評価による課題の共有と活動計画検討を通じて具体的な活動事項の確認と進捗管理を行った。

3 関係機関との連携

J Aとは現地対応、野菜花き試験場とは技術支援、専門技術員とは活動全般について連携を図り

ながら活動に取り組んだ。

■本年度の成果

1 施設化(雨よけ、養液土耕、細霧冷房)の推進

(1) 県単事業を活用して本年きゅうりの養液土耕栽培を開始された方は2名、面積は26aとなった。

(2) 細霧冷房実態調査から、装置の稼働によってハウス内温度が低下し、外気温よりも低く推移することが明らかになった。調査結果などを参考に細霧冷房導入の手引きとなる資料を作成した。

2 施設土壌における連作障害対策と生産性向上

夏秋雨よけ作型におけるきゅうりのネコブセンチュウ類に対しては定植時の粒剤と生育時の液剤の体系処理によって、コブの着生程度が小さくなることが確認できた。この成果はJ Aとの連携により生産部会の反省会などを通じて生産農家に周知した。

3 担い手の育成

きゅうりの新規栽培者を対象に「帰農塾」「スキルアップセミナー」を8回開催した。延べ39名が受講し、基礎的な知識や技術の習得に一定の役割を果たした。

新規栽培者の中から7名を重点対象に選定し、個々の課題解決の支援活動に取り組んだ。その結果4名が就農計画の目標を上回る収量を達成した。また新規栽培者等を対象に現地講習会を2回、情報交換会を1回開催し、技術向上や成果発表を通じたスキルアップが図られた。

■今後の課題と対応

きゅうりの施設化に伴う高温対策として細霧冷房の手引き資料を活用した推進に取り組む。

連作障害については速やかに発生ほ場を把握するとともに、拡大防止のための講習会などを通じて生産者への周知に取り組む。

担い手育成については新規栽培者の能力向上のため、新たに重点対象農家を定めて支援活動に取り組む。(技術経営係：榎山 岳彦)